

環境に係る情報協議会 国営施設応急対策事業「西網走地区」

1. 事業の概要(案)

◆事業の目的

本地区の基幹的な農業水利施設は、国営西網走土地改良事業（昭和56年度～平成17年度）にて造成されたが、送水路及び幹線用水路において漏水事故が発生し、農業用水の安定供給に支障を来しているとともに、施設の維持管理に多大な費用と労力を要している。このため、本事業では、これら施設の機能を保全するための整備を行うことにより、農業用水の安定供給及び施設の維持管理の軽減を図り、農業生産性の維持及び農業経営の安定に資するものである。

◆受益面積 2,855ha

◆主要工事 送水路・幹線用水路（改修）

2. 地域の環境に対する考え方(網走市田園環境整備マスタープラン、網走市環境基本条例より引用)

□農村環境の現状と課題

《現状》

◎ 網走市における河川は、一級河川～2条・二級河川～3条・準用河川等含め80条の河川がある。また、これらの河川は、網走湖・能取湖・藻琴湖・濤沸湖と湖を形成しその湖は、わかさぎ・牡蠣・シジミ等の養殖場として漁民の生活湖として重要な役割を果たしている。（網走市）

《課題》

◎ 湖の状況を把握しながら、河川環境の保全・緑化等の生態系に配慮した整備を進めることが必要である。（網走市）

□環境保全の基本的考え方

◎生態系の多様性が確保され、野生生物の種の保全が図られ、森林、緑地、農地、湿地、湖沼、河川、海域等における多様な自然環境が地域の自然的社会的条件に応じて適正に保全されること。

◎人と自然との豊かなふれあいを確保するとともに、地域の個性を生かした良好な景観の形成、歴史的文化遺産の保全及び活用を図ることにより、潤いと安らぎのある良好な快適環境を確保すること。

3. 環境配慮計画

□基本方針

地域の環境保全に対する基本方針を踏まえ、施設の整備にあたっては、自然環境や生態系への影響を最小限にする工法を採用するなどの配慮を行う。

□取り組み内容

生態系への配慮

◎鳥類の繁殖活動時期を避けた用水路の施工時期を設定する。

◎用水路改修における下流河川の魚類生息環境に配慮し、濁水・土砂流出防止に努める。